

風姿花伝第四、神儀云　仏在所には

一、仏在所には、須達長者、
祇園正舎をたてゝ供養の
時、釈迦如来御説法ありし
に、提婆一万人の外道を伴
い、木の枝篠の葉に幣を附
て、踊り喚めば、御供養宣の
べ難かりしに、仏、舍利弗

(口訳)

天竺に於ては、須達長者が、祇園精舎を建立して、仏を供養し奉つた

時、釈尊が御説法をせられたが、その時提婆が一万人の外道を引きつれ、木の枝や篠の葉に幣を附けた物を持ち、大声で歌ひ踊つたので、釈尊は御説法遊ばし難かつた。その時、釈尊が舍利弗に目くばせなされると、舍利弗は直に仏力を感受し、御後戸に於て、鼓や鉦の楽器を揃へ、阿難の才覚、舍利弗の智恵、富樓那の弁舌を以て、六十六番の物真似をせられたところ、外道共は、笛や鼓の音を聞いて後戸の方に集

に御目を加へ給へば、仏力

を受け、御後戸にて、鼓、

鉦鼓を調へ、阿難の才覚、

舍利弗の智恵、富樓那の弁

説にて、六十六番の物真似

をし給へば、外道、笛鼓の

音を聞きて、後戸に聚まり、

是を見て静まりぬ。其隙に

如来供養を宣給へり。それ

より天竺に此道は初る也。

つて來、その物真似を見物して騒ぎが止んだ。その間に、釈尊は御説法を遊ばした。かうした事から、天竺に於て、此の猿樂の道が始まつたのである。